

【14 宇城市 Uki City】



大田尾海岸から

宇城市では、市西端の宇土半島先端部の有明海に面する大田尾海岸、天草大矢野島と対峙する三角西港、三角岳や高野山など、旧三角町内の各地から、有明海越しに“南東面の雲仙岳”が眺望できます。空気が澄んだ日には、三角岳から阿蘇山も眺望でき、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることが可能です。

旧三角町は、島原半島3市、天草地域2市1町とともに“雲仙天草観光圏”を構成しており、熊本市方面から雲仙・天草への玄関口として、旅人を最初に楽しませてくれます。シンボルの三角岳は、山頂部の3つの展望台に加え、山腹には“雲仙展望台”“天草展望台”があり、雲仙岳・天草諸島と海が織り成す“水陸の大展望”が楽しめます。

有明海沿岸部を通過して三角港に至る国道 57 号線は、もともと阿蘇くじゅう国立公園と雲仙天草国立公園をつなぐルートとして、別府観光の父・油屋熊八氏が提案した九州横断道路(別府市～くじゅう～阿蘇カルデラ～熊本市～雲仙～長崎市)の一部となっており、阿蘇山と雲仙岳のつながりを感じることができる道路です。以前は、三角港から島原港へフェリーにて接続し、この航路からの雲仙岳は、与謝野鉄幹や北原白秋ら5名の詩人の紀行文“五足の靴”の中で絶賛されていますが、平成 18 年以降は熊本港～島原港のフェリーに代替され、代わりに“天草宝島ライン”(三角港～本渡港)が就航して、雲仙天草国立公園へのもうひとつの海上ルートとなっています。

平成 27 年に世界文化遺産(明治日本の産業革命遺産)に登録された三角西港は、三池炭鉱の石炭積出港でしたが、実は雲仙岳そびえる島原半島の南端の口之津港の補助港として整備されました。三池炭鉱は有明海奥部に位置し、周辺が干潟で港湾整備が難しいため、明治11年から有明海の入口にある口之津港を海外輸出港に指定し、三池から小型船で運んで口之津港で大型船に積み替えていましたが、輸出体制の強化に向けて、明治 20 年に三角西港が整備・開港されたのです。有明海沿岸における、雲仙岳が見える範囲内での3地区協力体制、というわけです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、宇城市内を旅してみませんか？

●宇城市の観光情報はこちら↓

宇城市まちづくり観光課 <http://www.city.uki.kumamoto.jp/kankou/>



三角西港から



大田尾海岸の飲食店から